

達第一號

海軍無線電報取扱規約附表第一通信省船舶局名路符號ノ欄日本郵船ノ部中「JNA」ヲ奈川丸」ヲ削除ス

大正七年一月十日

加藤友三郎

正誤

大正六年達第五百十四號中左ノ第五條

「衝突沈没」ハ「衝突」ノ誤

第二十五號書式ノ「記号」部第七項中

39

「衝突沈没」ハ「衝突」ノ誤

病名	發生月別
病名	發生月別

同第十項中

病類表例言第二項中「傳染病」ハ「傳染病」ノ誤

病類表中二百一ノ上「腫」ノ字脱漏セシモノアリ

大正七年一月十日

海軍省副官

海軍

陸第二號

明治四十三年五月 陸第五十六號海軍水雷學校規則中左ノ改正ス

大正七年一月十四日

海軍大臣 加藤 友三 閣

第二十條第三項第四項中「艦隊其ノ他各部」トアルヲ「艦船部隊其ノ他各部」ニ改メ末項ヲ左ノ如ク改正ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦船部隊其ノ他各部ノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ身體検査ヲ行ヒ高等科水雷術練習生ニ在リテハ本則第十七條ニ、特修科水雷術練習生ニ在リテハ本則第十七條ノ二ニ、高等科電信術練習生ニ在リテハ海軍教育本部長ノ定ムル電信術使備試驗規格ニ合格シ且海軍水雷學校長ノ送付セル英文試驗問題ニ依リ其ノ指定期日ニ於テ學方試驗ヲ行ヒ本則第十九條ニ適合スル者ヲ選拔多所見表^{別表}ヲ附シ選出期限内ニ鎮守府司令長官ニ報告セシム鎮守府司令長官ハ更ニ選拔ヲ行ヒ右所見表ト共ニ其ノ採用人名及所屬ヲ校長ニ通知シ艦船部隊其ノ他各部ノ長ヲシテ期日内

二 海 軍

ニ入校セシム艦船部隊其ノ他各部ノ長ハ其ノ出發前ニ於テ更ニ身體検査ヲ行ヒ不合格ノ者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ補缺採用ノ手續ヲ行フモノトス

第四條、第二十二條乃至第二十四條、第二十七條乃至第二十九條中「艦隊其ノ他各部」トアルヲ「艦船部隊其ノ他各部」ニ改ム

0982

陸第三號

海軍總務ニ左ノ通信號符字ヲ附付ス

大正七年一月十四日

G O B X

號

海軍大臣 加藤友三郎

海軍

0983

新編国語

昭和四十一年編纂五十三日編纂總用度中右ノ邊行至邊凡ク

大正七年一月二十一日

編纂大田 加藤 友三 編

0984

頁	用	語	用	字	備	考
19	鞘軸承ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ	シロキ. スイリヨク. ツケ	蒸氣推力承	Steam thrust bearing		
20	馬蹄片ノ次ニ下ノ二用語ヲ加フ	コハアツ. シキ. スイリヨク. デクウケ マ ク ラ	高壓式推力軸承 枕	{ Michell's Pivot type Kingsbury's } thrust bearing Pad		
26	真空唧筒ノ次ニ下ノ用語ヲ追加ス	ホーシヤシキ. エーヤ. ポンプ ホーシヤポンプ	放射式抽氣唧筒 放射唧筒	Kinetic air Pump Kinetic Pump		



目

録

目

ダイイチ. ホーシヤキ	第一放射器	Steam ejector
ダイニ. ホーシヤキ	第二放射器	Kinetic ejector
ダイイチ. ポンプ	第一唧筒	Head Pump
ダイニ. ポンプ	第二唧筒	Pressure Pump
フクスイ. ダマリ	復水溜	Kinetic tank
ホキュー. バルブ	補給弁	Make up valve
ホーシヤクダ	放射管	Air suction Pipe
27 分類項目填坐ノ次ニ分類項目 減速装置ヲ設ケ次ノ用語ヲ加フ		
ゲンソク. ソーチ	減速装置	Reduction gear
デンキ. シキ. ゲンソク. ソーチ	電氣式減速装置	Electric reduction gear
スイリヨク. シキ. ゲンソク. ソーチ	水力式減速装置	Hydraulic reduction gear
ハグルマ. シキ. ゲンソク. ソーチ	齒車式減速装置	Mechanical reduction gear
オヤ. ハグルマ	親齒車	Driven wheel

ユ.ハグルマ	見齒車	Pinion
ユードム.ハグルマ.シキ.ゲンソク.ソチ	遊動齒車式減速裝置	Mechanical reduction gear with floating frame
シ シ ン	指 針	Pointer
シドム.チヨセム.バルブ	自動調整弁	Automatic regulate Valve
ピストン	吸 錐	Piston
ユードム.ヂク	遊動軸	Pivot
ユードム.ヂク.ヂ	遊動軸脚	Pivot link
ユードム.ヂク.ツケ	遊動軸承	Floating frame
38 揮發器ノ備考欄ヲ	[carburettor] ノ如ク油ヲ揮	ト訂正ス
	Vaporiser 發スルモノ	
50 水管罐ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ		
セキタン.センシヨム.ガマ	石炭専燒罐	石炭ノミヲ燃料トスル罐
50 移動罐ノ前ニ下ノ一用語ヲ加フ		
アブラ.センシヨム.ガマ	油専燒罐	油ノミヲ燃料トスル罐
50 「コルニシ」罐ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ		
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> K <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 田 </div> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 境 </div> <div style="border-left: 1px solid black; padding: 0 10px;"> 田 </div> </div>		
コンシヨム.ガマ	混燒罐	油及石炭ヲ燃料トスル罐
62 「コン」ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ		
カザグチ	風 口	Slit of air cone
62 調整弁ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ		
テンカヨム.アブラ.ポンプ	點火用油唧筒	油専燒罐ノ點火ニ用ウル唧筒
85 脚ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ		
ボムアシ	棒 脚	Guide Stem (弁ノ)
111 回轉計ノ次ニ下ノ二用語ヲ加フ		
トソクケム	等速計	Synchroscope
サシヨミ.ユルグキ.ケム	差込遊隙計	Pocker gauge
112 遊隙顯微計ノ備考欄ヲ	[Dummy micrometer (バーソンスタルピン) Clearance indicator (カーチスタルピン)]	ト訂正ス
112 標準計ノ次ニ下ノ一用語ヲ加フ		
ユルグキ.ケム	遊隙計	Oil clearance gauge ノ如ク遊隙計測用
113 軸指形ノ備考欄	Shaft gauge ノ次ニ「depth gauge for Shaft」ヲ追加ス	

達第五號

編纂簿ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

大正七年一月二十三日

海軍大臣 加藤友三郎

G Q H L 簿

六

簿



0986

達第六號

軍備補充費ヲ以テ製造スヘキ二等巡洋艦三隻ニ左ノ通命名セラシ

大正七年一月二十四日

海軍大臣 加藤友三郎

佐世保海軍工廠ニ於テ製造

二等巡洋艦

北上

三菱造船株式會社社長崎造船所ニ於テ製造

二等巡洋艦

木會

株式會社川崎造船所ニ於テ製造

二等巡洋艦

大井

七

海軍

0987

達第七號

軍備補充費國以テ製造スヘキ驅逐艦十三隻ニ左ノ道命名ス

大正七年一月二十四日

海軍大臣 加藤 友三郎

舞鶴海軍工廠ニ於テ製造

一等驅逐艦

一等驅逐艦

一等驅逐艦

三菱造船株式會社長崎造船所ニ於テ製造

一等驅逐艦

一等驅逐艦

横須賀海軍工廠ニ於テ製造

二等驅逐艦

神戶 風

島 風

瀬 風

矢 風

羽 風

從 風

從 風

二等驅逐艦

吳海軍工廠ニ於テ製造

二等驅逐艦

二等驅逐艦

株式會社川崎造船所ニ於テ製造

二等驅逐艦

二等驅逐艦

浦賀船渠株式會社ニ於テ製造

二等驅逐艦

株式會社東京石川島造船所ニ於テ製造

二等驅逐艦

權

檢

栗

梨

竹

枝

櫻

八 海 軍

0938

透第八號

醫藥類別等級別表中、總洋藥二等、總藥劑「ノ次ニ」、北上、木曾、大井「ヲ」、總洋藥一等、
總「澤風」ノ次ニ、沖風、高風、總風、矢野、羽風「ヲ」、同二等ノ總「總」ノ次ニ、津、瀨、
檢、栗、與、竹、柿、橘「ヲ」加フ

大正七年一月二十四日

海軍大臣 加藤友三郎

九
海軍

0989

陸第九號

大正五年陸第三號機砲及小銃學銃射擊規則中左ノ通改ム

大正七年一月二十四日

海軍大臣 加藤友三郎

第十一條中「陸上」ヲ削除ス

第十四條中射擊區分教練射擊欄内「射手ノ發射彈數二〇〇」ヲ「三〇〇」ニ、同欄射擊欄内「括弧内」ヲ「射擊狹陰ナルトキハ適宜之ヲ短縮スル」ニ、備考欄内「中」陸的伏的ニ在リテハ約四十二ヲ「陸的伏的ニ在リテハ約八十」ニ改メ同欄内ニ左ノ一項ヲ加フ

三、教練射擊用彈藥ノ一部ハ適宜ノ標的ヲ用キ對航空機射擊研究トシテ之ヲ使用スル
 コトヲ得

第二十七條中表及備考一乃至五ヲ左ノ如ク改ム



海軍

射擊區分	射擊種類		射距離(米)	姿勢	彈藥包數標的種類	記 事
	基本	應用				
戰術射擊	分隊	五〇〇乃至三〇〇	適宜	立	一五	射擊狹陰ナルトキハ適宜之ヲ短縮スルコトヲ得
	小又中隊	一〇〇〇乃至五〇〇	適宜	立	一五	
教練射擊	基本	三〇〇乃至四〇〇	適宜	立	三〇	要スルハ射距離ハ二〇〇米迄短縮スルコトヲ得
	應用	三〇〇	適宜	立	一五	

一、本表各種射擊ハ陸上ニ於テ施行スルヲ例トス但シ教練射擊ニ在リテハ海上ニ於テ適宜ノ標的ヲ用キ施行スルコトヲ得

二、教練射擊ハ成ルヘク數回ニ分テ施行スルモノトス
 應用教練射擊用彈藥包數ノ三分ノ一以內ハ適宜ノ標的ヲ用キ任意ノ人員ヲ以テ對航空機射擊研究トシテ之ヲ使用シ又三分ノ一以內ハ各種射擊ノ試射及准士官以

0990

上ノ射撃ニ使用スルコトヲ得

三、檢定射撃ハ伏姿、膝姿及立姿ノ各姿勢ニテ五發宛射撃セシムルモノトス而シテ本射撃ニ在リテハ各自ニ試射ヲ爲サシムルコトヲ得ス

所屬長官ハ適宜委員ヲ編成シ本射撃ヲ施行セシムルコトヲ得

四、分隊戰團射撃ハ毎回約一分隊宛施行シ膝的又ハ伏的ヲ使用スルトキハ其ノ數ハ射擊人員ト約同數トシ軸心間隔約二米ニ植立スルモノトス

五、中(小)隊戰團射撃ニ使用スル標的ノ數ハ射擊人員ト約同數トシ(射場又ハ其ノ他ノ狀況ニ依リ半數迄減スルコトヲ得)膝的及伏的ニ在リテハ軸心間隔約一米又ハ二米ニ植立スルモノトス

起倒的ハ射撃部隊一中隊ニ付通常一組(立的一連伏的二連トシ各一連ノ列兵數四十トス)ヲ使用スルモノトス

第三十三條 所轄長ハ檢定射撃ニ於テ優等ノ成績ヲ得タルモノニハ小銃射撃優等章ヲ授與スヘシ

第三十四條ニ左ノ通追加ス

三回級ヲ優等ノ成績ヲ得タルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス優等章ハ之ヲ返納セシムルコトナシ但シ爾後成績優等ナルモ別ニ之ヲ授與スルコトナシ

左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ該事故カ檢定射撃施行後受章前發生シタルトキハ優等章ヲ授與セス又之ヲ保有スル者ニ在リテハ之ヲ返納セシム但シ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ニ對シテハ其ノ情狀ニ依リ之ヲ授與シ又ハ保有セシムルコトヲ得

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二、素行修ラス軍人タルノ面目ヲ汚シタルトキ

第三十六條ノ二 優等章ノ授與返納ニ關スル事項ハ所轄長之ヲ所屬長官ニ報告シ且之ヲ本人ノ履歷表ニ記入セシムヘシ

現役ヲ退キタル者及歸休中ノ者ニ對スル優等章ノ授與返納ニ關スルモノハ在籍鎮守府ノ人事部長之ヲ行フモノトス

第四十五條ノ次ニ左ノ通追加ニ

附 則

本則ハ大正六年十二月一日ヨリ之ヲ實施ス

附圖第五圖乃至第七圖標的左端ノ露止法ヲ右端ト同様トス

0991

達第十號

海軍武官待命休職停職者心得中左ノ邊改正ス

大正七年一月二十八日

海軍大臣 加藤 友三郎

第四條第二項中「轉地療養ハ己ムヲ得ナル事故ノ爲旅行許可ノ上尙延期ヲ要スルトモ亦本項ニ準ス」ヲ「又轉地療養若ハ己ムヲ得サル事故ノ爲認許ヲ受ケ旅行スル場合ニハ歸著スル迄届出ツルニ及ハス」ニ改ム

十二

海軍

0992